

# コスモス 5月号

## 第72巻 第5号

◆宮柊二カレンダー(62) 五月の歌

木の下もりづちの盛土もりづちに立つ十字架は白き蓮華の花輪  
を纏まとふ  
歌集『多く夜の歌』

「犬を葬る子供達」と題する五首の三首目。家族の一員として可愛がっていた犬が三歳で逝ってしまった。前後の歌にその亡骸を埋葬する三人の子の悲しむ様子が静かに描写されており、一人の父親として子らを見守る眼差しの優しさが伝わってくる。

愛犬の死を前にして多感な年頃の子どもたちが涙を拭いながら手向けの花輪を編んでいる姿が、蓮華の花の白さとともに目に浮かぶ。この歌が詠まれた昭和35年当時の三鷹にはまだ3月から5月にかけて蓮華畑が広がっていたようだ。(森田則子)